

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年1月31日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
基礎・基本の定着とかかわり合う力の育成	基礎・基本の定着	A	A	少人数指導やドリル・問題集の活用等が、基礎学力の定着と児童の自信につながった。 話し合いの素地づくりとして行っている「大村っ子たいむ」を職員で参観し合い、話し合いの仕組み方や指導のポイントについて研修を深めた。積極的な児童も増えてきたので、これを日頃の授業にもつなげていけるように今後も継続して取り組んでいく。	A	チャレンジテストは子どもたちにとってよい刺激となっているので、より積極的に実施してほしい。 一方で、長期休業中の学習については、もの足りなさを感じる。何らかの工夫が必要である。	・日頃のテスト等にも目標をもたせ、チャレンジテストと同様の熱量で取り組めるような工夫をしていく。 ・長期休業中の学習については、子どもたちの自主性を育てるという意図をしっかりと浸透させ、向上心をもたせる指導を行うとともに個別支援を充実させていく。
	「聴く、考える、話す」力の育成	A					
互いに思いやり、認め合い、励まし合える集団作り	温かな学級集団づくり	B	A	校長講話、授業研究等でもテーマとしてあいさつの奨励に取り組んだが、芳しい結果が得られなかった。原因を探り、新たな手だてを検討していきたい。 特別活動や学校行事等で児童主体の活動となるような企画・運営を心がけ、児童に自信や達成感を味わわせることができた。今後も模索し続けていく。	A	子どもたちの生活の様子から、健やかな成長を感じることができている。まだまだ伸びしろのある子どもたちなので、今後もよりよい指導を模索し続けてほしい。	・来年度も継続して子ども主体の教育活動を展開していくが、目指す子ども像を職員間でしっかりと共有していく。 ・子どもの変容や成長を見逃さず、しっかりと認めていくことで、子どもたちの自信と次への活動意欲につなげていく。
	子ども主体の活動の推進	A					
健康・安全への意識向上	体力づくり運動の推進	A	A	昨年度の学校評価の反省から、教師が率先して、児童とともに体を動かすことで、外遊びの充実を図った。体育授業では、振り返りカードを積極的に活用し、学期末などに通知表とともに持ち帰ることで、体力や技能の向上を親子で実感できるようになった。 さわやか調べ、メディアチャレンジ、養護教諭による保健授業などを通して、日頃から健康への意識を高めることができた。	A	メディアとの関わり方は保護者との連携が不可欠なので、もっと積極的に働きかけたほうがよい。ただ、タブレットを扱うこと自体は、将来に向けて有益な学習なので、使用目的や使い方を継続指導してほしい。	・体育授業での振り返りの充実と教師とともに外遊びの奨励など、大きく改善された体力づくりのための取り組みを継続していく。 ・学習用タブレットを有効利用するために、スキルとモラルの両面から指導計画を立て、全学年で指導していくとともに、家庭への啓発活動にも力を入れ、粘り強く取り組んでいく。
	健康づくりの推進	B					
	安全な生活に対する意識の向上	A					
信頼される教師集団の育成	子どもと接する時間を生み出す改善 教師力の向上	B	B	職員のタイムマネジメント意識の向上に努め、在校時間を縮減できた。ただ、授業実践に関する負担感は大きく、研修のあり方や職員の意識改革等を検討する必要がある。 安心・安全な学校づくりに取り組んだが、まだ十分とは言えない。今後も、日頃の見取り、生活アンケートや面談、学級通信やIPを通して、さらに信頼を得られるように努めていく。	A	先生がたがよくやってくれているが、疲弊していないか心配。多少の批判の声もあるようだが、学校の意図を粘り強く周知し、これからも自信をもって教育活動を推し進めてほしい。	・業務の精選と効率化の視点から働き方改革を進めるとともに、職員の意識改革にも取り組んでいく。 ・学校の相談や支援の体制を積極的に情宣していく。 ・小さな変化や相談ごとを職員間で共有し、すばやく誠意をもって対応し、安心・安全な信頼される学校づくりを目指す。
	地域や家庭との連携強化	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】